

## 化粧品による脱色素斑

藤田保健衛生大学皮膚科教授

松永佳世子

(聞き手 池田志孝)

---

化粧品による脱色素斑についてご教示ください。

<東京都勤務医>

---

**池田** 松永先生、化粧品による脱色素斑についてですけれども、ある化粧品で非常に全国的に有名になっていますが、これはどのような経緯で明らかになってきたのでしょうか。

**松永** 私がこのことを知ったのは、実は2013年7月4日の自主回収のときです。

びっくりしたのですが、自主回収をすることに至った契機になったのは、岡山の皮膚科の先生たちが複数例、最近、化粧品を使っていたら、同じ化粧品で脱色素斑になった症例があることに気づかれて、それを化粧品会社に問い合わせた。そして化粧品会社がびっくりして、社内でそういう報告例がないかをきちっと調べてみたら、30例を超える症例があった。これは大変なことだということで、社内で検討されて自主回収に至ったというのが今回の経

緯です。

**池田** 先生がその問題に取り組むようになった契機は何だったのでしょうか。

**松永** 私も女性の方で脱色素斑になって、それも変なまだらで、かぶれたあとに色が抜けている人が多いことを、2012年の12月ぐらいから気がついていたのですけれども、その原因に行き着いていなかったのです。

7月4日の自主回収を聞いたときに、私の患者さんの何人かが「先生、私もあの化粧品使っていた」と言ってきてくれたので、そこで私も、うちの医局の先生たちに同じような症例が何例あるか聞いたのです。そのときすぐに6例、同じような症例があったので、これは大変なことだと。

この状況では、ある石けん事件の経験もあり、それから考えると、今回は

何千人というレベルなのではないかと思っただけです。

これはきっと自主回収後も、患者さんたちも先生たちも困りそうだとすることで、「先生、頑張らなくていいですか」という声がありました。といいますのも、松永班という研究班があって、厚生労働省の指定研究を2013年の4月から3年間でやっていたのです。

その研究班は、いろいろ皮膚障害が起こったときに、アレルギー学会や日本皮膚科学会、日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会など、患者さんをきちんと診断できる専門集団がいる学会を中心に据え、そこに専門医がいて、その周りに一般の医師がいて、みんなで原因や病態を明らかにするために疫学調査をする。その結果をメーカーや厚生労働省や消費者庁、経産省など、行政とも協力しながら情報を交換して、早く患者さんの状態をよくしたり、問題を解決するネットワークを構築することが、そもそもの研究課題だったので。

それで、今回のケースはこれに当てはまるということで、次の週の月曜日の夜にその研究班のメンバーが集まりました。そこですぐにみんなで「やろう」という意思決定をして、そのときに化粧品会社や、発端になった岡山の先生たちに声をかけて、内容を知り、何かできることはないかと検討に入ったのです。

厚生労働省の安全対策課に、「この問題を解決したい。いいと思うか」と申し上げると、「いい」というお返事をいただきました。それで案を練って、一次調査票や診療の手引、患者さんへのFAQをつくり始めました。そして島田日本皮膚科学会理事長に、実はこういうたいへんな事態が起こっているので、できれば特別委員会をつくって、皮膚科の先生たちに情報を出したいと提案しました。7月17日に特別委員会が発足して、人選も行い、7月19日に診療の手引だとか一次調査票だとか、そういうものを先生方のお役に立てるように提案したということが初めてです。

**池田** それが今回の素早い初動に結びついたと思うのですが、手引をつくられて、また改訂して、一次調査、二次調査と行われたと思うのですが、その結果、一番気になるところは、いったい何例ぐらいの方が日本全国でこの影響を受けたのかということですね。

**松永** その全国の調査は、化粧品会社がホームページに月に1回ということたちで報告されています。2014年8月31日というデータが一番最新のデータです（2014年9月収録時点）。白斑様症状を確認した方が1万9,264名いる。その時点で、完治あるいはほぼ回復した人が、自主回収から1年1カ月以上たたって、8,465人が回復傾向にあるとい

うデータが出ています。

**池田** 2万人弱、症状を呈した方がいて、8,500人ぐらいは軽快されているということですね。

**松永** かなり軽快してきたということです。私たちがもらった一番確かなデータは、二次調査です。合計1,341名の患者さんの回答を日本皮膚科学会の先生方から発送いただきました。要するに、全体の患者さんの1割弱を皮膚科医が検討したというデータです。

その中で、やや軽快、4分の1以上軽快した人は半年の時点で72.2%だった。総合評価で72.2%が何らかの動きがあって、よくなっている。不変とか増悪という人たちが3割弱ぐらいいるということですね。

なお、特別委員会で診断基準をつかったのですが、1,341人の中に確実例と疑い例の両方が入っています。

**池田** 疑い例は必ず入ってきますね。

**松永** ですので、まだ回復していないけれども、可能性が十分ある人も入っている。その人も入れて、72.2%が何らかの改善傾向にある。

治療した人としなかった人があるのですが、治療を積極的にしたのが764人、治療しなくて様子を見た方が576人。両方ともよくなっています。治療をしなくて様子を見た方も69.4%、7割は改善してきている。一生懸命治療した人たちは74.2%と5%ぐらい多いのですが、よくなっています。

**池田** 少しよくなるのですね。

**松永** リーズナブルなデータかもしれません。

ここからわかることは、この状態は、ロドデノールの入った化粧品をやめることによって回復してくること。治療によってもう少し回復することがわかったと思います。

**池田** こういった化粧品でここまで白斑の被害が広がったのは、今まで私自身、聞いたことがないのですけれども、このロドデノールとはどのような機序でこういったことを引き起こすと考えられているのでしょうか。

**松永** このことがあってから、もう一回基礎的にも調べられて、すでに英文の論文にもなっていますので、認められたデータからの話をしますと、商品名ロドデノール、ロドデンドロールが一般名称になるのですが、この物質はメラノソームの中でチロジナーゼの基質になります。

チロシンというものが基質になってメラニンになることは皆さんご存じなのですが、このメラノソームの中にロドデノールが濃い濃度で入ってくると、チロシンと拮抗し、だんだん基質になってしまうかたちで、多くなるとロドデノールの代謝物がつくられます。チロジナーゼで代謝されたものがつくられていって、それがすごくたくさんになったときに細胞障害性となったと考えられます。細胞の元気がなくなって

きて、アポトーシスになっていったのです。

**池田** 細胞死を起こすということですね。

**松永** 数が少なくなってしまうたり、なくなってしまった部分もあったということです。

2%の濃度で最初に美容液を市販しました。しかし、それぐらいのものでは全然細胞障害性は起こらないのです。ですので、ものすごく濃い濃度のロドデノールがメラノソームの中に入ったとき、そして代謝産物が、例えばシステインとか、外に出ればグルタチオンとか、そういうもので解毒されないような状況になったときに細胞障害性になったことがわかったのです。

**池田** 今のところ、2%の濃度でこれだけの症状が出ることは証明されていないのでしょうか。

**松永** 申請のときのデータではなかったですね。

患者さんたちに使い方を聞いてみると、何回もコットンにつけてパックみたいにしていたりとか、その上をサララップを当てて寝ているとか、効けば効くだけ、いいよねと使ったようです。女の人だと白くなりたいものだから。

**池田** それが女性の心ですね。

**松永** すごくよくわかるのですよ。こんなにしてつけていましたと。あと美容液、クリーム、日焼けどめ、マス

クと4種類も使っていた人がいました。使った人たちのうち脱色素斑になった人を調べてみると、使った製品の種類が多いほど発生頻度は高くなっていたのです。

動物実験でも、30%ぐらいの濃度にしないと脱色素斑にならないのです。今の患者さんたちもやめてよくなっているけれども、やめたら動物たちも回復している。

その理由は何かという、先生もご存じだと思いますけれども、人間には幹細胞やメラノブラストという蓄えがあって、上のほうのメラノサイトがなくなっても、もう一回供給します。

なので、ずっとメラノサイトを抑制していれば少なくなっていくのだけれども、やめることによってもう一回、必要だから蓄えているメラノサイトが泳いでいくというか、再生することがあるので、治ってきているのだらうと思うのです。

**池田** それは患者さんにとってもいい話ですね。

**松永** ただ、患者さんの中には、私たちの調査でも、4%ぐらいは尋常性白斑を合併している。普通の場合も2%ぐらい、尋常性白斑の発生がありますね。治りにくい人たちの中にこのような方も入っている可能性があります。また、幹細胞そのものが年齢とともに少なくなってしまうことが知られています。部位にも差があるかと思われま

す。

**池田** それもありますね。

**松永** 毛穴がいっぱいあるところは  
治りやすいし、首や甲のところは毛穴

が少なくて薄くて、光老化しています。  
そういうところは回復が遅いということ  
です。

**池田** ありがとうございます。